

仕様書番号:仕-USB-R3702-JP

御中

仕 様 書

品名:AC 一体 USB 給電用コンセント

品番:USB-R3702W-JP

USB-R3702DG-JP

JAPPY

2018年6月26日

因幡電機産業株式会社

1. 適用範囲

本仕様書は「AC 一体 USB 給電コンセント」に適用する。

2. 品名・品番

品名:AC 一体 USB 給電用コンセント

品番:USB-R3702W-JP(ホワイト)

USB-R3702DG-JP(ダークグレー)

3. 適合法規及び関連規格

電気用品安全法(特定電気用品)

JIS C8303,C8306,C6950

J55022(IEC 整合規格)

USB 規格 USB2.0(参照規格),USBBC1.2(参照規格)

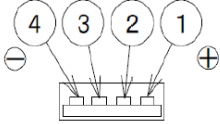
RoHS 指令(2011/65/EU)

4. 製品仕様

項目	仕 様
定格出力	DC5.0V、2.4A(2ポート合計)
定格入力	AC100V 定格周波数:50/60Hz
USBポート	2口
USBコネクタ形状	Aタイプ
AC差込み口定格	1400Wまで、極数:2 極配置: ■ ■
適合電線	VVF φ1.6、φ2.0
寸法	詳細寸法は添付図面参照
使用温度範囲	-10℃~40℃
質量	約125g
使用場所	屋内(屋外不可)

5. 製品性能

試験方法は 1. 適合法規及び関連規格による。

	項目	特性
ねじなし端子部性能	引張強度	電線の脱出、端子部破損等使用上有害な異常のないこと。 引張荷重: 100N(10.2Kg)にて 1 分間
	曲げ強度	電線の脱出、端子部破損等使用上有害な異常のないこと。
	ヒートサイクル	25 サイクル目と 125 サイクル目における温度上昇の差は 8K(8°C) 以下のこと。
	温度上昇	35K(35°C) 以下
DC 部性能	出力電圧特性	入力電圧 AC100V±10V <ul style="list-style-type: none"> ・①-④ピン間の電圧を測定したとき DC5.0V±5% ・②、③ピンの状態は接続される機器による。 ※USB コネクタピン配置は下図参照。 
	過電流防止特性	過電流(2.5~2.9A)が流れると、出力停止。 ※原因となる機器を取り外すと再び使用可能
	接触温度限度	通常負荷の使用条件下で、接触することができる機器の外部表面は 95°C 以下。
	異常温度上昇試験	過電流保護機能不動作時の最大電流を通電したとき下記の条件を満足すること。 ①発火したときは、機器から外に延焼してはならない。 ②機器から熔融金属が出てはならない。 ③試験後、耐電圧に耐えられること。
	絶縁抵抗	DC500V 絶縁抵抗計により測定した充電部と機器の表面との間の絶縁抵抗は 1MΩ 以上であること。
	耐電圧試験	①通常負荷の温度上昇試験の直後、1 次回路と器体の間に AC2000V 検知電流 10mA、60 秒間に耐えること。 ②通常負荷の温度上昇試験の直後、1 次回路と 2 次回路の間に AC2000V 検知電流 10mA、60 秒間に耐えること。

項目		特性	
DC 部 性 能	伝導妨害波電圧の許容値	表 1-クラス B 情報技術装置の電源ポート伝導妨害波電圧の許容値	
		周波数範囲 MHz	許容値 dB(μ V) 準尖頭値 平均値
		0.15~0.5 0.5~5 5~30	66~56 56 60 56~46 46 50
		注 1)周波数の境界では低い方の許容値を適用する。 注 2)0.15MHz~0.50MHzの範囲での許容値は、周波数の対数値に対して直線的に減少する。	
	放射妨害波の許容値	表 2-測定距離 10m でのクラス B 情報技術装置の放射妨害波の許容値	
		周波数範囲 MHz	準尖頭許容値 dB(μ V/m)
		30~230 230~1000	30 37
		注 1)周波数の境界では低い方の許容値を適用する。 注 2)妨害が発生した場合は、追加の保護手段が要求されることがある。	
	USB ポート挿抜耐久性	挿抜回数:10,000 回(挿し/抜きで 1 回) 挿抜頻度:200 回/時以下 ・通常使用が可能なこと (接触不良なきこと、異常温度なきこと) ・コネクタ、半田状態に異常なきこと (導通不良に至る半田クラック)	
AC 部 性 能	保持力	開閉試験の前後で下記の値を満足すること。 初期値:10.0~55.0N 開閉後:5.0~60.0N	
	刃受部温度上昇	15A の電流を通電したときに、開閉試験の前後で刃受部の温度上昇は、下記の値を満足すること。 初期値:35K 以下 開閉後:40K 以下	
	開閉性能	下記の条件で刃受部の開閉試験をおこなったとき、使用上有害な異常がないと共に、刃受部温度上昇、絶縁抵抗、耐電圧の各項を満足すること。 15A 125V(力率:約 0.6)、20 回/分にて 5000 回 22.5A 125V(力率:約 1.0)、6~10 回/分にて 100 回	
	絶縁抵抗	DC500V 絶縁抵抗計により異極間および充電部と非充電金属部間を測定したとき、開閉試験の前後で 100M Ω 以上。	
	耐電圧	AC1250V を異極間および充電部と非充電金属部間に 1 分間加えたとき、開閉試験の前後で異常のないこと。	

項目		特性
共通 部 性 能	耐熱	80±3℃にて7時間放置後、使用上有害な異常のないこと。
	外郭押圧強度	600N(61.2Kgf)の荷重を1分間加えた時、本体に使用上有害なカケ、ワレ、ヒビ、破損などの故障がないこと。
	自重落下	1mの高さよりに3回落下させた時に、本体に使用上有害なカケ、ワレ、ヒビ、破損などの故障がないこと。

6. 使用上のご注意

- (1) 屋内配線の絶縁抵抗試験等で定格電圧以上の電圧が印加される場合は、必ず、本体に接続している AC 側銅線を外してください。
- (2) 製品本体に異常発熱や異臭がみられた場合は、直ちにご使用を中止してください。異常がみられたままご使用を続けると変形、変色、ススの発生、焼損の恐れがあります。

変更履歴

版数	日付	変更内容	担当	検印
	2018.6.26	新規制定	吉田	-